

あぐり 最前線



※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、**(収穫何日前まで使用可能)か/通算使用可能回数**を表しています。農薬は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。
例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能

水稲



- 育苗
 - 平置き育苗(太陽シート・ピアレスフィルムなど)
 - 育苗箱の下に水がたまらないようにしましょう。降雨後はシート上の水を掃いでください。
 - 積み重ね出芽(段積み)
 - 覆土後すぐに積み込まず、覆土表面に水が上がってから積みましょう。
 - 無加温棚育苗
 - 徒長苗にならないように、一度上下の苗を入れ替えてください。発芽状態を確認しましょう(病害、発芽不良の早期発見)。

●緑化・硬化

平置き育苗では最初から緑化しているので、10cm程度伸びたところで被覆資材を外します。棚育苗では、10cm程度で苗床に移し、日焼け防止対策で寒冷紗をかけて緑化するまで育苗してください。

ポイント

- ① 棚出しや被覆資材をとる時間は必ず、夕方または曇天で日差しが弱いときに行いましょう。
 - ② 棚から出したときに種もみが露出している場合は、灌水を行い落ち着かせてから覆土で補いましょう。
 - ③ 棚から苗床に出した場合、寒冷紗などの弱光下で1日程度ならし、緑化させましょう。
 - ④ 午前中の灌水はしっかり、夕方は箱の外側を中心に灌水しましょう。
- 病害虫防除
- ▽育苗中
 - 苗立枯病
 - ・タチガレン(液) 500倍(500ml/箱)(2回)
- または

土壌分析をしましょう!

—コスト低減に向けて—

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目を記入して、5月17日(金)までに各支店へ持参ください。分析結果は6月中旬頃にご連絡致します。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

田植機レンタルサービス 申し込み受付中!!

レンタル利用対象者

J Aわかやまの組合員

利用時間

利用時間の単位は1日(8:30~17:00)です。

お願い

レンタル農機は組合員皆さまの資産です。適正な使用を心掛けてください。



田植機レンタル料金表(税込)

	平日	土・日・祝日	洗浄料
乗用田植機 (4条植え 施肥機なし)	27,000円	32,000円	1,000円

田植機レンタルサービスの詳しい利用方法・利用規約については、お気軽にお問い合わせください。
本店購買部農機センター 担当:川端 ☎080-3114-7411

・ダコニール1000 1000倍(500ml/箱) (播種14日後まで2回)
 ＊タチガレンとダコニール1000の7日以内の近接散布は薬害を生じる恐れがあるため避けてください。

◎リゾプス菌

種もみの周囲あるいは床土面に白い綿状のカビが生え、最終的に育苗箱全面を覆います。種もみの発芽は悪く、発芽しても不揃いになり、症状が激しいと枯死します。

【原因と対策】

①土壌や育苗資材の汚染が第1次伝染源となるので、育苗資材は洗浄してから使用しましょう。
 ②厚播きや育苗前半の過度な灌水は発生を助長するので避けましょう。
 ③出芽時の高温、育苗初期の低温は発生を助長するので、段積みや無加温棚育苗の場合、温度管理に注意しましょう。

◎ピシウム菌

苗が2、3葉期に急に萎凋し、のちに枯死し、坪枯れ症状を示します。リゾプス菌のようなカビは生じません。

【原因と対策】

①緑化期以降の低温と土壌の過湿による「ムレ苗」が原因です。天候に合わせて灌水を心掛け、発生した場合は薬剤による防除を行い、土壌を乾燥気味に管理しましょう。
 ②培土の細粒化も原因の1つとなります。育苗後半まで土の粒が維持できる培土を使用しましょう。
 ＊団粒構造がしっかりしている「宇部培土2号」がおすすです。

・モンカット(フ40) 200倍(3日/5回)
 ◎根茎腐敗病
 被害株は早く除去してください。また、左記の薬剤を20日置きにローテーション散布するとより効果的です。

・ランマン(フ) 500〜1000倍(2〜3ℓ/㎡) (生育期、ただし収穫30日前まで/3回) ＊土壌灌注
 ・ユニフォーム(粒) 18kg/10a(生育期、ただし収穫30日前まで/3回)
 ＊土壌表面散布
 ・オラクル(顆) 200倍(1〜3ℓ/㎡) (生育期、ただし収穫3日前まで/3回)

＊高温乾燥時の粒剤散布は、薬害の恐れがあるので注意してください。

ピーマン



●着果
 樹の生育につれて、着果位置は生長点の近くが上がってくる状態が良いものです。開花位置は、主枝の先端から5cm前後の3節目を基準とします。果実の着果位置は、5〜6節目に肥大果があれば生育のバランスがとれ、着果周期は早くなります。開花位置が低い場合は糸を緩め、樹勢を調整してください。

●病害虫防除

◎うどんこ病
 発生初期であれば、治療効果のある左記の薬剤を散布しましょう。
 ・トリフミン(水) 300〜500倍(前日/5回)

◎編葉枯病

編葉枯病ウイルスを体内に保持したヒメトビウンカが、稲の茎葉を吸汁して感染させる病気です。育苗期からの防除を徹底し、予防することが大切です。

▽育苗中

・エルサン(乳) 200倍(7日/2回)
 ▽田植え3日前〜当日
 ・エバーゴルドワイド箱粒剤(50g/箱)

＊田植え直前よりも、前日〜3日前に処理すると、薬剤が苗に確実に吸収され、より効果が上がります。

◎ジャンボタニシ
 ・ジャンボたにしくん 1〜2kg/10a(60日前/2回)

田植え直後〜本田初期に処理します。より高い効果を得るために、水田全体に均一に手まきまたは粒剤散布機で散布しましょう。

●除草(一発処理)

①散布後1週間は止め水管理とし、水持ちの悪い圃場ではフロアブル剤とパツク剤は効果が安定しないため、粒剤を使用しましょう。
 ②水持ちの悪い圃場で水が切れそうになった場合は、水尻はしっかりと閉めたまま、水口から少しずつ水を入れて水深を保ちます。
 ③使用時期が早過ぎると薬害が生じる場合があるため、使用時期を守りましょう。

【ポイント】

《粒剤》
 ・アールタイプ1キロ(粒) 1kg/10a(田植え直後〜12日)
 ＊田植え同時処理も可能です。

◎アザミウマ類

・アグリメック 500〜1000倍(前日/3回)
 ・スピノエース(顆) 500倍(前日/2回)

シシトウ



気温が上昇するにつれ、着花数が増え果実も短期間で肥大します。収穫適期を逃さないように注意してください。

●灌水

乾燥が続くと果実の肥大や着花がともに悪くなります。灌水は軽く土を握って、2力所ぐらい亀裂が生じる程度の分量で管理してください。

●病害虫防除

◎アブラムシ類・アザミウマ類
 発生が認められたら、左記の薬剤を散布しましょう。
 ・アドマイヤー(顆) 500〜1000倍(前日/2回)

青ネギ



●播種

均一にばら播きするか、またはすじ播きします。播種後うすく覆土し、樹皮堆肥などをまいて乾燥を防ぎます。

●定植

苗の大きさを揃え1株あたり8〜13本を浅植し、十分灌水して活着を良くしてください。

●病害虫防除

◎ハモグリバエ類・アザミウマ類
 ・スタークル(顆) 50倍 0.5ℓ/箱

《フロアブル剤》
 ・ミスターホームランL(フ) 500ml/10a(田植え直後〜12日)

《バック剤》

・ゼータファイヤジャンボ 40g×10個/10a(田植え後5日〜15日)
 または、ジャンボタニシ食害防止効果剤

・シヨウリヨクジャンボ 50g×10個/10a(田植え直後〜10日)

＊バック剤は、湿気を吸わないよう使用前直前に開封し、雨のない、風の弱い日に散布しましょう。

キャベツ



気温が上がるにつれ結球するのが早く、裂球や腐りが増え、害虫も多くなります。病害虫防除は早めに行いましょう。

●病害虫防除

▽5月上旬 ※SFE
 ・アクセル(フ) 1000倍(前日/3回)
 ・ウララDF 200倍(前日/2回)

ハクサイ(春どり)



収穫が遅れないように十分注意して、適期収穫に努めましょう。春ハクサイの収穫適期の期間は約5日間です。収穫遅れは石灰欠乏症(アンコ)が出やすくなります。乾燥が続く場合は灌水してください。

●病害虫防除

▽5月上旬 ※春さかり・黄葉70
 ・アクセル(フ) 1000倍(前日/3回)
 ・コルト(顆) 400倍(3日/3回)

(灌水) (定植前日〜定植時/1回)

ニンジン



本葉が4〜7枚を過ぎると肥大が盛んになります。この時期に追肥と、乾燥が続くようであれば適期灌水してください。間引き時期は本葉6〜7枚までに終了してください。

●灌水

生育期間中、土壌の乾湿の差が大きくなるとニンジンが縦にはじけるので、必要に応じて灌水しましょう。

●病害虫防除

初期発生にポイントをおきましょう。
 ◎黒葉枯病・斑点病
 ・ベルクト(フ) 1000倍(14日/5回)
 ◎ヨトウムシ
 ・ランネット45DF 1000倍(前日/2回)

ウメ



●灌水

発芽期から果実肥大期の乾燥は、果実肥大や新梢の伸長を抑制するため、適宜灌水を行うことが重要です。特に5月以降、果実肥大が最盛期に入る時期に土壌水分が不足すると生育が悪くなり、生理落果の多発や果実肥大に悪影響を及ぼします。晴天が7〜10日続いた場合は、1樹あたり100ℓ程度の灌水を行い、乾燥しやすい圃地では5〜7日間隔で、早め早めの灌水に努めましょう。果実の肥大期に水分が不足すると、落果が助長されます。

・バリダシン(液) 500倍(3日/3回)

ブロッコリー(春どり)



乾燥が続く場合は、適宜、畦間灌水してください。また花蕾の変色が早くなりますので適期収穫を心掛けましょう。

●病害虫防除

▽5月上旬 ※ピクセル・フォレスト
 ・アクセル(フ) 1000倍(前日/2回)
 ・ウララDF 200倍(前日/2回)

新ショウガ



●換気

ハウス内がムレ過ぎると紋枯病などが発生しやすくなります。ハウス内の温度が35℃以上で長時間経過しないよう十分換気してください。

●灌水

気温が高くなるにつれ、換気や灌水量を多くしなければなりません。灌水過多で高温管理すると塊茎の肌が著しく悪くなる場合があります。

また、灌水が不均一になると生育の不揃いや葉のねじれが発生しやすくなりますので、十分に注意してください。

●病害虫防除

◎アワノメイガ
 ・パダンSG(液) 1500倍(7日/5回)
 ・トルネードエースDF 2000倍(7日/3回)
 ◎紋枯病
 ・バリダシン(液) 500倍(14日/4回)

●病害虫防除

▽5月上・中旬
 ◎黒星病・すす斑病
 ・スコア(顆) 300倍(前日/3回)
 ◎カメムシ類
 ・スタークル(顆) 200倍(前日/3回)
 ▽5月下旬〜収穫前
 ◎黒星病・すす斑病
 ・インダー(フ) 500倍(前日/2回)

モモ



●摘果

摘果は一般に予備摘果、仕上げ摘果および見直し摘果(袋かけ時)の3回です。

●仕上げ摘果

満開後40〜45日頃から始めます。残す果実は、縦長で果形の良いものとし、小玉果や片肉果、病害虫被害果、双胚果、変形果(先端が曲がっている)などを摘果し、縫合線を挟んで左右の比率が6対4の正常果を残します。

着果の目安は短果枝3本に1果、長果枝には1果とします。

●病害虫防除

昨年は、台風の影響でせん孔細菌病の越冬菌量が多いと思われます。袋かけ前の防除となりますので、特に丁寧に散布してください。
 ▽5月上旬
 ◎せん孔細菌病
 ・マイコシールド 1500倍(21日前/5回)
 ◎黒星病・灰星病
 ・オーシャイン(水) 2000倍(前日/3回)

◎シンクイムシシ類・アブラムシ類
・モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)

▽5月中旬

◎せん孔細菌病

・マイコシールド 150倍(21日前/5回)

◎黒星病

・ジマンダイセン(水) 600倍(21日/3回)

▽5月下旬(袋かけ前)

◎せん孔細菌病

・マイコシールド 150倍(21日前/5回)

◎灰星病・果実赤点病

・ベルコート(水) 1000倍(前日/3回)

◎モモハモグリガ・シンクイムシ類

・エクスレルSE 500倍(前日/3回)

イチジク



切り戻した前年の結果枝の基部付近からたくさんの新芽が発生するので、横芽または下芽を残し、その他を除去します。芽かきは、芽が3〜4葉になったころを目安に、片側40cmに1芽を残すように行ってください。

●病害虫防除

▽5月上旬以降

◎アザミウマ類

耕種的防除として、必ずマルチの敷設および除草を行います。

▽5月10日頃

◎そうか病

・キノンドー(フ) 600倍(60日/3回)

◎アザミウマ類

・アディオオン(乳) 2000倍(前日/2回) *展着剤スカッシュ 2000倍加用

▽5月25日頃

◎疫病

・Zボルドー 1000倍(適時)

◎アザミウマ類

・ジェイエース(溶) 2000倍(45日/1回) *展着剤スカッシュ 2000倍加用

◎株枯病

本病に感染したイチジクは、7〜8月頃より新梢が日中萎れ、進行すると下葉が黄化・枯死します。成木の主幹地際部は、やや凹んだ病斑が観察されることが多く、表皮下は黒褐色に変色しています(土壌中の糸状菌が伝染源となり、風雨による傷口や害虫の食害痕から感染します)。

・オンリーワン(フ) 2000倍(前日/3回) *1樹あたり5〜10ℓ灌注

*株元から約30cmまでの土壌表面に、十分浸み込むように灌注しましょう。

◎アキノクイムシ・カミキリムシ類

予防には、ガットサイドSを主幹の地際部まで塗布します。枯れ枝は、カミキリムシ類の発生源となるので伐採・焼却しましょう。また樹勢の弱った樹が被害をうけやすいため、肥培管理にも気をつけて樹を強く保つことが予防につながります。

カキ



早期の摘蕾・摘花を徹底し、果実肥大を促進させましょう。品種別に摘蕾を始める順番は、平核無↓刀根↓富有です。

●摘果

柿の果実は、へた部の奇形・病害虫被害により肥大に影響がでます。摘蕾・摘

果時には、これらのない蕾・果実を残すようにしてください。

●病害虫防除

▽開花直前 ※刀根早生

◎落葉病・炭そ病

雨が多くなる前の5月上旬中に防除を徹底しましょう。病原菌は、葉裏の気孔から侵入し感染しますので、葉裏にも薬剤がかかるように丁寧にいきましょう。

・エムダイファー(水) 600倍(45日/2回)

◎カキクダアザミウマ

開花期に加害し、果実が肥大してから被害痕が現れます。

・ジェイエース(溶) 1500倍(45日/2回)

◎ハダニ類

雨が少なく乾燥が続く場合に多発します。

・ダニトロン(フ) 1000倍(7日/1回)

▽5月上旬(新梢伸長期) ※富有柿

◎フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガ

・トクチオン(水) 800倍(75日/2回)

◎うどんこ病

・サルファアゾル 500倍(適時)

*開花当日に受粉すると種子が入りやすくなります。開花期間中は、ミツバチなどの訪花昆虫に影響のないように十分注意し、人工授粉する樹以外は、薬剤散布はしないでください。

▽5月中旬(開花直前)

◎落葉病・炭そ病

・エムダイファー(水) 600倍(45日前)

／2回)

◎カキクダアザミウマ

・ジェイエース(溶) 1500倍(45日前/2回)

ミカン



今月は開花期を迎え、ミカン栽培が本番となりますが、園地毎の生育状況を見ながら管理し、高品質生産に努めましょう。

●病害虫防除

▽5月上旬〜下旬

◎訪花害虫・アブラムシ類

・スタークル(顆) 2000倍(前日/3回)

◎灰色カビ

落弁期の花弁に灰色のカビを生じ、落花を助長します。発病した花弁が春葉に付着すると、褐色同心円状の病斑が形成され落葉し、多発すると着果数が減少します。

・ナティーボ(フ) 1500倍(前日/3回)

●灌水

5〜6月は根の伸長時期なので、乾燥させないことが大切です。また、水分不足はホウ素欠乏症や品質(肥大・果皮障害)に悪影響を及ぼすことがあるため、特に今年定植した苗木は、乾燥させないよう注意が必要です。



牡羊座
3/21~4/19

全体運
健康運

●落ち着いて行動できる月。やりたいことは、自分のペースでじっくり進めて。センスを磨ける趣味を持つと吉。
●体質にぴったりの健康法が見つかりそう。

幸運を呼ぶ食べ物 ●イサキ